

松江が生んだ画工と写真家

——堀櫟山・芙峯・市郎の美術——

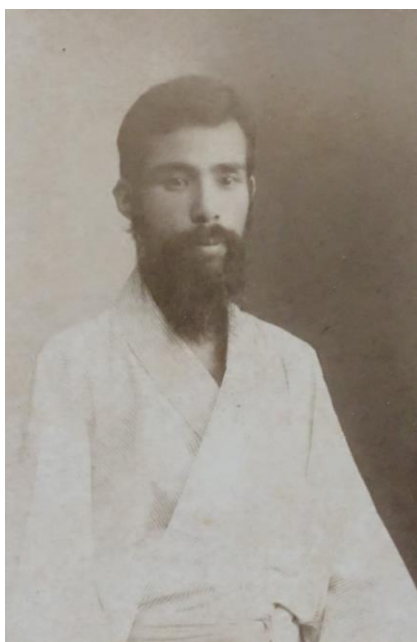
【前期】

明治維新後、松江藩士の家系から特異な 3 人の芸術家が生まれました。島根県で初めて美術学校を開いた堀櫟山^{ほりれきざん}、その息子でアメリカ・ニューヨークにおいて写真家として成功した堀市郎^{いちろう}、櫟山の弟で昭和初期の松江を描き、漢詩結社「剪淞吟社」^{せんしゅうぎんしゃ}を率いた堀芙峯^{ふほう}です。この 3 人の作品を一同に展示します。



初公開 松江大橋北詰から望む昭和 6~9 年頃の松江城下

堀芙峯筆 雲州松江風景 松江歴史館蔵



右（西）から、北松江駅（現一畑電鉄しんじ湖温泉駅）、宍道湖の夕日、大橋川の屋形舟、嫁が島、電波塔、松江



銀行、中央郵便局、松江大橋南詰、売布神社、現在と違う場所に架かる松江新大橋、大山などが描かれている。（最上段が全図、2 段・3 段 は部分）18.1×173.0cm

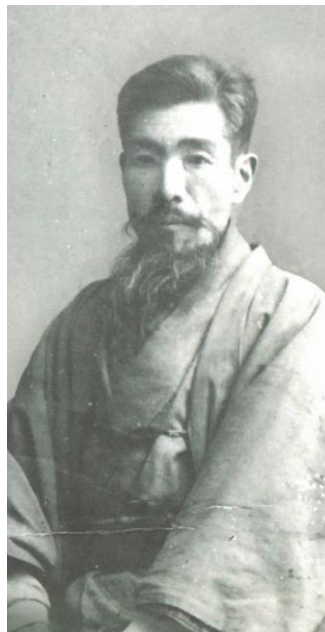
堀 芙峯^{ふほう}（亀五郎） 明治 10 年（1877）外中原に生まれる。櫟山の弟で、南画^{しもだいらりゆうきゅう}を下平龍^{かづのり}邸、油絵を石橋和訓^{いし}に学ぶ。飯石郡役所、第二国立銀行、安田銀行に勤め、松江、隠岐西郷、境港、今市、鳥取、東京、大阪、倉吉へと転勤する。昭和 6 年（1931）夏に退職し 55 歳で松江に戻る。松江の漢詩結社「剪淞吟社」^{せんしゅうぎんしゃ}の編集を託された。同 6 年に大阪城の復興天守竣工時、天守に展示された蒲生氏郷^{がもうじさとがんせき}石城奮戦図は秀逸である。同 9 年、内障眼に罹り視力が衰えた。同 22 年（1947）没。

堀芙峯 38 歳。大正 3 年（1914）8 月 15 日、殿町の森田写真館で撮影（堀昭夫氏蔵）

れきざん
堀 櫨山 (宗太郎、久則)

安政3年(1856)城下外中原に生まれる。祖父から日本画を学んだ。18歳で家督を継ぎ、明治16年小豆澤亮一に洋画を学んだ。翌年、第2回内国絵画共進会に出品し、12月、西茶町に島根県初の私立和洋画学校「方圓学舎」を開校したが翌年閉校する。師範学校・中学校の用務教員となるが、同20年に独立して「松江画工」として活躍する(31歳)。以後、第1回島根県私立教育会教育品展示会、第3回内国勸業博覧会、第1回島根県物産共進会などに出品する。同42年(1909)没。

堀櫨山



いちろう
堀 市郎

櫨山の長男で、明治12年(1879)外中原に生まれる。尋常小学校(現、内中原小学校)卒業後、殿町の森田写真館、東京の江木^{えぎ}写真館で写真修行し、同34年渡米した。同39年ニューヨークに移り、大正元年(1912)マンハッタンに堀写真館を開業した。野口英世、東郷平八郎、新渡戸稲造、後藤新平、早川雪洲等を撮影し、その写真は『ニューヨークタイムス』やファッション雑誌『ヴォーグ』に掲載された。昭和4年(1929)に帰国し、横浜で画家となった。昭和44年(1969)没。

堀市郎



初公開 櫨山のデッサン

——鉛筆で描いた大黒様
大黒様 堀櫨山筆 鉛筆書
明治37年(1904)頃

30.6×88.7cm



日本海海戦勝利の連合艦隊司令長官
東郷平八郎

堀市郎撮影 1905~17年



国連事務次長として活躍していた
頃の新渡戸稲造

堀市郎撮影 1905~28年

※この頁(裏面)、堀市郎肖像
写真は佐々木寛子氏蔵、
その他全て佐野博史氏蔵。